

発行 望月中学PTA
編集 広報部
印刷 広報部

子供の個性を伸ばす

学校長 片桐 一男

昨今の特徴として、子供の望むことは何でも『自由』にやらせることが本人のためだという意識があつて、その結果、子供は「何をやってても自由だ、自分が決めたことだから、人から干渉されたくない」という気持ちになる傾向があります。自分を大事にした生活をさせるには、少なくとも中学生の段階では、本人自身に自分の行為、言動に責任と自覚を持たせることが必要です。しかし、自覚とか責任感といったものは、自

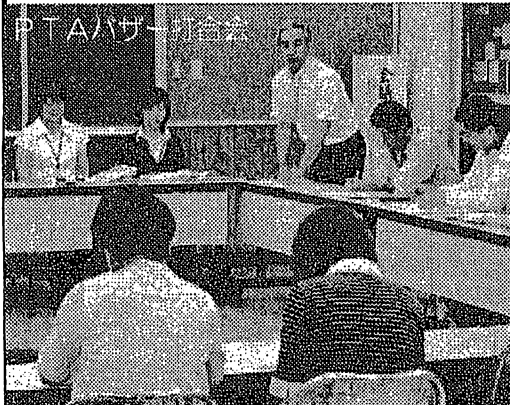
由を謳歌していて自然に身に付くものではありません。子供と関わりの深い大人の強い支えがないと容易に身に付くものではないと思います。特に、親は子供の氣質を一番良く見抜いているものです。

のんびりした子に対しては、その子に合わせて一緒にゆったりと落ち着いた状態で臨む。そのうちに自分を意識し、自分の長所や短所に目覚める時が来ると思っています。

怒りっぽく、短気な子に

対しては、ただ優しく話しかけるといった表面的なことだけでなく、他に力を発散させる場を考えてやる。例えば、部活動に夢中になることによって、集中することの大事さを感じ取れる時が来ると思います。

若い人は、成功と失敗のバランスがあつてこそ、たくましく成長するものです。良くないことは毅然とたしなめ、本人の努力や成功に對しては心より讃えてください。それが意欲を持たせ自分の個性、能力を自ら伸ばそうとするエネルギー源になると思います。



佐久地区小・中学校
PTA指導者研修会
に参加して

平成二十一年度会長

黒柳 文彦

五月三十日(土) 八千穂中学校で開催されました全佐久PTA連合会主催の講演会と実践講座に副会長の皆様と参加して参りました。講演では全国学校栄養士協議会会長の市場祥子先生による「心と体を育む食事」をテーマにしたお話をお聴きし、改めて食育の大切さを実感しました。特に印象に残っているのは、不登校の生徒に毎日給食室へ給食だけ食べに来る事を勧め、最初は青白い顔をして表情も無かった子供が、何ヶ月か給食を食べに来る内に顔の血色も良くなり、笑顔をを見せて話してくれるようになり、後片付けも手伝うようになり、次第に自信を

取り戻していったというお話です。食育という事は心まで癒していく力があるのだなあと、その重大さに気付かされました。その後の実践講座では、父親の子育て、教育への関わり方をテーマに、普段会えない他校の保護者の皆様と意見交換したり、同じ悩みを共有して励まし合ったり、とても充実した時間を持たせて頂きました。

今後参加させて頂いた研修会等の内容や、感想をほんのわずかになつてしまひ申し訳ございませんが、皆様にご報告させて頂ければと思っております。ありがとうございました。